

FOCUS・都道府県の統計

冬場に高騰した葉物野菜の生産地は？

この冬にかけて、野菜の価格高騰が話題になりました。特に、レタスやキャベツ、白菜などの価格が平年を大きく上回ったことは度々メディアで報じられました。食料品価格の上昇は家計の消費を冷やし、日本経済にも打撃を与えたと考えられています。

野菜価格の高騰は昨冬にも起こった現象です。価格高騰の要因は様々挙げられていますが、そのひとつとして挙げられているものが低温、積雪などの天候不順です。先に挙げた野菜の生産地をチェックすると、レタスは長野県、キャベツは群馬県、白菜は茨城県の生産量がトップです。冬場の日本の消費をみるうえで、野菜生産地域の天気予報は要チェックといえそうです。

資料 都道府県別・葉物野菜の収穫量ランキング(単位:t)

	レタス	キャベツ	白菜
1位	長野県 205,800	群馬県 260,400	茨城県 242,400
2位	茨城県 86,100	愛知県 251,600	長野県 229,300
3位	群馬県 50,400	千葉県 129,000	群馬県 28,500
4位	長崎県 36,100	茨城県 107,100	栃木県 27,100
5位	兵庫県 28,500	神奈川県 75,600	北海道 24,600
6位	静岡県 22,900	鹿児島県 71,800	埼玉県 22,900
7位	香川県 19,700	長野県 67,300	愛知県 22,700
8位	福岡県 18,300	北海道 44,900	鹿児島県 22,000
9位	熊本県 17,300	熊本県 41,000	長崎県 20,600
10位	北海道 12,700	岩手県 29,500	兵庫県 20,200

(出所)公益財団法人矢野恒太記念会「データで見る県勢2018」
 (原出所)農林水産省「2016年産指定野菜および指定野菜に準ずる野菜の作付面積、収穫量および出荷量」

編集後記

注目された日銀総裁、副総裁人事が固まった。黒田総裁続投は昨年中からほぼコンセンサスになっており、副総裁についても日銀プロパーと学者からというパターンが踏襲されるだろうと考えられていたので今回の人事は大きな波乱もなくマーケットで吸収されたようだ。既定路線、コンセンサス通りと言えばその通りだが、誰が総裁になっても日銀にやれることは限られているとマーケットは考えており、以前に較べれば注目度が落ちているということだろう。

この5年間で「異次元緩和でデフレから脱却」という目標はほぼほぼ達成したと言ってもいいと思う。「期待に働きかける」としてマーケットにサプライズを与え、それが次のサプライズへの期待を生んで為替、株価を動かし徐々に経済を暖めてきた。インフレ期待が盛り上がることはなかったがサプライズ期待はうまく働いたと言えるかもしれない。

昔、「衆議院解散とマルコー(公定歩合)についてはうそをついても(本当のことを言わなくても)構わない。」ということが普通に言われていた。市場との対話が常識の時代に、長期間にわたりサプライズで金融政策を動かすのは無理がある。当局者の発言には必ず裏があるはずだとか、根拠のない期待感だけでマーケットが変動したりと無駄なコストが高むだけだ。

今やマーケットもサプライズ演出は望んでいないように見える。異次元の緩和だけに副作用も目立ってきた。ここからの5年間で終わった時、「さすが黒田日銀」と言われるような市場との対話、政策運営をお願いしたい。(H.S)